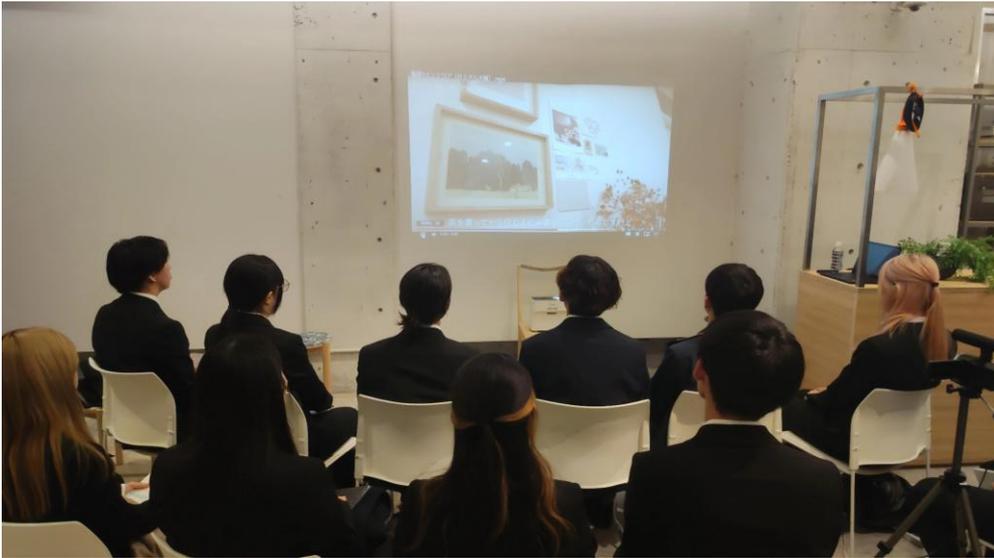


中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	新たな事業分野のビジネスモデルを学ぶ
調査日	11月7日(木)
調査先	リノベル株式会社
担当 CVS	片岡良臣 加藤真帆 松野雄一郎
参加学生数(学年)	1年生12人、2年生5人
調査趣旨・目的	リノベルの経営方針・企業戦略を学ぶことで、ベンチャー企業の経営例の知見を深める。
調査結果	<p>今回、私たちはリノベル株式会社の本社に訪れ、上席執行役員の安河内亮様から企業の経営とコンサルティングについてご説明いただき、後にグループに分かれて社員さんに直接質問をする時間をいただきました。その後、オフィス見学もさせていただきました。</p> <p>最初に、上席執行役員の安河内亮様からリノベル株式会社の業務内容及び事業展開についてご説明をいただきました。現在の日本では世帯数と既存の物件の数が後者の方が多いため、国は国家戦略として“既存住宅の流通の活性化”を目指しています。その中で、リノベル株式会社は中古購入からリノベーションする一貫した流れを受け持つ会社として新たな事業を展開されています。新築購入率が高い中、中古購入からリノベーションまでをリノベル株式会社が一括マネジメントを行うことで新規事業として成り立たせており、世の中の需要と供給を見極め新たな事業に取り入れるというベンチャー経営の基盤について学ぶことが出来ました。</p> <p>また、社員の皆様とのお話の中で顧客の要望を聞き出すコンサルティング(カウンセリング)の際に大切にしていることについてご説明をいただきました。コンサルティングを行う際に、どのような物件や内装にしたいかなどをただ聞くのではなく、なぜそうしたいのかという要望の背景を詳しく聞くことをご提案をする際により多くの視点から顧客にご提案をさせていただけるように意識していると説明いただきました。お話を聞き、リノベル株式会社ではファミリー層の家庭だけでなく独身の方や法人に対しても事業を展開しているので、一つ一つの案件に寄り添う企業方針を学ぶことができ、他同業者との差の特徴の一部なのではないかと、マネジメント側の視点からも考えることが出来ました。</p> <p>加えて、リノベル株式会社では中古をリノベーションすることにより、家の取り壊しから発生する資源の環境負担を抑える働きがあり、サステナブルなサービスを提供できるとご説明いただきました。事業として展開する中で環境への意識も高め、企業としての価値を向上させているなど、気づく部分があり学びになりました。</p> <p>オフィスに関しても、部署ごとにエリアは決まっていますが座席は決まっていないので、自由に席を変えたり、フリースペースで気分を変えて仕事をすることができるということと、フロアの床や天井、作業スペースなど様々なところに工夫をこらしたオフィスになっていると説明いただきました。実際に見学して、社員の皆様がコミュニケーションを取りやすいようにテーブルが配置されており、人が通る際に会話が生まれるような設計など職場の雰囲気作りという点でも社内マネジメントの要素の一つだと学ぶことが出来ました。</p> <p>今回の企業訪問を通じ、会社の経営方針や理念が社員さんに浸透していることで、担当者それぞれが顧客に対し一貫した姿勢でサービスを提供しているという点に魅力を感じました。</p>

※調査時の写真



安河内亮様からお話をいただいた。

